

## 蓮 の 栽 培

高野山<sup>ようちいん</sup>櫻池院の表玄関には、ハスを咲かせるために大きな火鉢が四つ置いてあります。毎年、夏になればハスが美しき咲き、参拝者の目を引いています。しかし、今年の花は小ぶりで、しかも十輪ほどしか咲きませんでした。どうやら土の入れ替えを怠ってしまったようです。花は正直なものです。

櫻池院の風景はなんとも<sup>しげもりみれい</sup>重森三玲作の石庭です。国指定の記念物です。この石庭から眺める玄関と本堂は、いかにも高野山らしいお寺の風景です。櫻池院では、庭園の美観を保つために、山門からなかには車を入れていません。

私が写真を撮る位置はいつも決まっています。夏になれば、火鉢から伸びあがっているハスの前に参拝者を立たせて、そのバックに石庭と玄関と本堂を入れます。ハスの花をアップにして写真を撮れば、夏の櫻池院宿泊記念になるからです。住職の私もよく撮影に誘われますから、夫婦のときはその間に割り込みます。この夏は主人公のハスの花が貧弱でしたから、今年はとっておきのカメラアングルを教えることを控えました。

### ◆池深ければ蓮大なり 感応<sup>いた</sup>こもごも臻る (大日経開題 釈此)

空海名言の一句です。「池が深ければ蓮華が大きく成長するように、今の環境の条件によって結果が様々に現れる」という意味です。

沼池に咲いているハスはいずれも大きな花を咲かせます。その大輪は人の背丈よりも高く、威風堂々としています。葉も立派なもので、沼池全面が緑葉でうまります。鉢のなかで育ったハスとは比べようがありません。

あらゆるものごとは環境の影響を受けて大きく育ちます。火鉢のハスは、井戸のなかの蛙と同じですから、せめて手入れだけは念入りにしてあげたいものです。火鉢のハスには、畑の土を入れてやれば大輪を咲かせることができると、庭師さんから聞かせていただきました。広々とした田畑の感触がハスに伝わるのでしょう。